

研究課題名	【Web 会議番号 2020_10】 乳児期のビタミン D 投与によるアレルギー予防に関する研究開発
フリガナ	ナカノ タイジ
代表者名	中野 泰至
所属機関（機関名） （役職名）	千葉大学医学部附属病院小児科 助教
本助成金による発表論文，学会発表	Breastfeeding is a risk factor of egg white sensitization in two independent birth cohort in Japan Taiji Nakano, Fumiya Yamaide, Naoki Shimojo Department of Pediatrics, Graduate school of medicine, Chiba University, Japan, JSA-WAO Joint Congress 2020

研究結果要約

国内外の疫学調査から母体・乳児のビタミン D (VD) 欠乏の頻度が多く、VD 低値が食物アレルギー感作及び食物アレルギー発症に深く関与する可能性が示唆されている。そこで本研究では出生早期から乳児に VD を経口的に摂取してもらい、VD が感作・アレルギーを予防できるかを検証することを目的として、VD シロップ及びプラセボを用いた無作為ランダム化比較試験を計画した。各グループ 150 名ずつ合計 300 名を予定とした。COVID19 の影響により一時期リクルートが停滞したため、2021 年 8 月出産までのリクルートとした。2018 年 10 月中旬からリクルートを開始し、2021 年 8 月時点で千葉メディカルセンター172 名、千葉大学医学部附属病院 93 名の合計 265 名でリクルートを完了した。6 か月健診、1 歳健診まで終了したのはそれぞれ 192 名、159 名である。6 か月での血液検査ではコナヒョウヒダニ、牛乳、卵白、オボムコイドの感作率（クラス 1 以上を陽性）はそれぞれ 1.0%、4.5%、24.2%、5.6%だった。1 歳時点での感作率（クラス 1 以上を陽性）はそれぞれ 5.4%、14.3%、38.1%、13.7%だった。全ての症例が終了するまで VD 群かプラセボ群かオープンできないため、VD の効果について今年度はまだ評価できていない。今後 2022 年 8 月に全ての症例の 1 歳健診が終了予定であるのでそこで解析を行う予定である